

公 民 [倫 理] (100 点 50 分)

2003 年 12 月 8 日 (月) 2 限実施

千葉県立千葉東高等学校 第 3 学年 1,3,4,5,6,7,8,9 組対象

Produced by K.Kataoka

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
 - 学年，組，名前を記入する。
 - 学年，組の該当個所をマークする。
 - 出席番号をマークする。(10 番以上は 10 の位と 1 の位の 2 カ所)
 - 男女の欄をマークする
 - 1.2.3 枚目のところはマークしない。
 - 停・欠・遅・早のところはマークしない。
 - 機械の読みとりミス確認のため、解答欄はマークの左側に番号を記入しておく。以上が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
- 4 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。
- 5 裏表紙には倫理の補習についての連絡があります。

倫 理

(解答番号 [1] ~ [50])

第 1 問 次の文章を読み下の問い (問 1 ~ 問 1 2) に答えよ。(配点 34)

西ヨーロッパ中世の時代は、スコラ哲学が、神を頂点として、神と人間、霊魂と肉体、また信仰と理性とを上下の關係に秩序づけ統一していた。これは、当時の封建的な身分制度と [1] のヒエラルキーが、個人を支配し、階級的に秩序づけていたことと対応している。しかし、中世も末期にさしかかると教皇権の衰退や黒死病の流行、レバント貿易などによる都市の隆盛など、中世的秩序を脅かす出来事が生じた。また、スコラ哲学の中にも (a) オッカムのように教皇の立場の誤りを指摘する者もあらわれるようになった。

イタリア・ルネサンスは 14 世紀、フィレンツェなどの政治的自治権と経済的蓄積をもった都市に始まった、(b) 古典文化の復興運動 である。これを [2] 主義ともよぶ。当時の人々が古典の中に見いだしたのは、教会の伝統的権威や従来への慣習に束縛されず、宇宙の神秘を探求しようとする (c) 活動的な人間像 だった。このルネサンス運動は、[3] 主義やヘルメス主義の神秘思想から影響を受けていた。これらの思想は、自然の中に神の存在を見いだそうとする汎神論的傾向をもち、人間の本性の内部にも神的な性質がひそんでいと説く。ルネサンスの芸術は、人体の優雅な姿を描くとともにその背後に神秘的な雰囲気をもたせているが、これはその自然観・人間観の影響である。

また、ルネサンスは自然の発見の時代でもあった。17 世紀を [4] の時代とよぶ場合もあるが、この時代は中世的な宇宙観にかわって (d) 科学的な宇宙観 が確立されるようになった。ただし、当時の自然学者たちは単純な合理主義者ではなく、神秘的直感と合理的思考の共存から生まれたものである。

アウグスティヌス以来、キリスト教では人が神の恩寵と救いに至るためには教会の媒介が必要であるとされていた。これに対して [5] は、個人としての自己の内面を見つめることによって、中世的な教会の権威からの解放をめざすものであった。1517 年『95 カ条の提題』をかかげて、ローマ教皇の贖宥状の販売に反対した (e) マルチン・ルター の主張はたちまちドイツに、ヨーロッパに広がった。

ルネサンスに始まる新しい自然観は、経験論と合理論の二つの近代哲学の流れを生み出した。学問と思想の大革新をめざした [6] は後に経験論の祖と呼ばれた。

問 1 文中の空欄 [1] ~ [6] に入れるのに最も適当なものを、次の ~ のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

デカルト	福 音	ローマ教会
新プラトン	宗教改革	フランシス・ベーコン
科学革命	人 文	市民革命

問2 下線部(a)に関連して、次のA～Cの文の中でトマス・アクィナスの思想とウィリアム・オッカムの思想の組み合わせとして最も適当なものを、下の～のうちから一つ選べ。[7]

- A 新プラトン主義の影響のもと、「魂の内における神の子の誕生」や「神の本質との完全なる一致」という思弁的神秘主義を展開した。
- B 信仰と理性の内的総合を追究し、信仰の超越性(神中心主義)と人間理性の自律性(人間中心主義)とを、緊張をはらみつつ両立させた。
- C 神の絶対的な超越性を確立し神以外の実在の偶然性を示すため、経験論、唯名論および主意主義を展開したが、それは信仰と理性の分極化をすすめた。
- D 神学と哲学はそれぞれ独立した学問ではあるが、もっとも重大な解決は神学にもとめられるから、哲学的知識は制限されると考えた。

トマス - A , オッカム - C

トマス - B , オッカム - D

トマス - A , オッカム - D

トマス - B , オッカム - C

問3 下線部(b)に関連して、ルネサンスの思想家ペトルルカについて述べた文として最も適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。[8]

カトリックの信仰に篤く 私有財産のない理想社会を描く中で、「羊が人間を食い殺す」イギリスの困い込み運動を批判した『ユートピア』を著した。

仏・英・伊・独に国際人として活躍し、ギリシア語原典をもとにラテン語訳聖書(ウルガータ)の誤りを指摘した。代表作は『痴愚神礼讃』

ラテン語古典に人間の価値と品位を見だし、古典の収集、研究、模倣に努め、詩集『カンツォニエーレ』を著した。

フィレンツェの政治家として活躍した後、著書『君主論』の中で、軍事力に比重をおき、場合によってはいかなる非道徳的手段をも辞さない、理想の君主像を描いた。

古代ギリシアとローマの思想、芸術、文化に熱中し、ダンテの『神曲』(神聖喜劇)に対して、『人曲』(人間喜劇)ともよばれる『デカメロン』を著した。

問4 下線部(c)に関連して、ルネサンスの理想の人間像として適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。[9]

普遍人(万能人)

経済人

遊戯人

職業人

問5 ルネサンスの思想家ピコ・デラ・ミランドラは、人間の尊厳の根拠をどのような点に見いだしたか。次の ~ のうちから一つ選べ。[10](1997 センター本試験)

人間は、どんなに迫害されても、非暴力の抵抗を通じて自分の道徳的優位を示すことができるという点。

人間は、神の前では平等であり、誰もが聖書をよりどころとする信仰のみによって義とされる、という点。

人間は、自由な意志によって、自分自身のあり方を決めることができる、という点。

人間は、自然界の中では最も弱い存在であるが、自分のその弱さを知っている、という点。

問6 下線部(d)に関連して、コペルニクスの著作を次の ~ のうちから一つ選べ。

[11]

アルマゲスト 天文対話 天球の回転について プリンキピア

問7 数量的自然観をあらわす次の言葉は誰のものか、下の ~ のうちから一つ選べ。

[12]

哲学は最も偉大な書物 宇宙の中に書かれている。それは数学の言葉で書かれている。

ブルーノ ケプラー パラケルスス ガリレイ

問8 科学的宇宙観に関連して、ニュートンについての説明として最も適当なものを、下の ~ のうちから一つ選べ。[13]

ドイツの天文学者、占星術師。太陽中心説を支持し、円運動で説明されていた惑星運動を楕円軌道であらわした。ヘルメス主義・新プラトン主義の影響のもと、宗教的情熱をもって宇宙の数学的調和を探求した。

イギリスの物理学者、数学者、天文学者で万有引力の法則を発見し、微積分法を創始した。いわゆる自然哲学者であるが、膨大な神学や錬金術の論稿・遺稿もあり、神学者とか最後の錬金術師とよばれることもある。

ドイツ生まれの物理学者、相対性理論の創始者。ラッセルらとともに平和運動や核兵器廃絶運動に取り組んだ。

イタリアのドミニコ会修道士、哲学者。ヘルメス主義の影響から宇宙無限論を主張した。彼は自然が生命をもつとする汎心論を説き、宇宙そのものにも動力因としての宇宙霊を認め、宇宙を巨大な生き物と考えた。彼は異端として火刑となった。

問9 下線部 (e)に関連して、ルターの思想の説明として適当でないものを、下の ~ のうちから一つ選べ。[14]

職業は神の召命であり、世俗的な職業に励んで禁欲的な生活を送ることが、地上における神の栄光をあらわすことだと考え、そこに救済の確信を求めた。

罪深い人間を救うことができるのは、ただ神の恩寵だけであり、恩寵によって可能になった信仰のみであると考え、救いのために善行は必要がないと考えた。

教会の制度によって定められた聖職者と平信徒の区別は重要ではなく、すべての人は自己の内心の信仰を通して、等しく神に近づくことができると考えた。

教皇の権力やキリスト教の伝統には一切権威を認めず、聖書に書かれたことのみを規範的権威と認めるべきだと考え、新約聖書をドイツ語訳した。

問10 カルヴァンの「予定説」の記述として最も適当なものを次の ~ のうちから一つ選べ(1994年センター本試験)[15]

恩寵を受けて救われるものとそうでないものとの区別は、この世での行為の善悪に応じて、神が決定するものである。

神はあらかじめすべての人間に救いをもたらすことを約束しており、救いとこの世での倫理的な生活とは無関係である。

救われるものと救われないものとの区別は、人間の行いによって決まるのではなく、神によってあらかじめ決められている。

人間の行為は、自由な決定によるように見えても、すべてはあらかじめ自然の必然性によって決定されている。

問11 次の文は誰の著作の一部分か、その著作の著者として適当な人名を、下の ~ のうちから一つ選べ。[16]

近代資本主義の精神の、いや、そのみでなく近代文化の本質的構成要素の一つたる職業理念の上に立った合理的な生活態度は、キリスト教的禁欲の精神から生まれ出たものである。

コンドルセ

ブルクハルト

ウェーバー

リースマン

問12 フランスのモラリスト、モンテーニュの思想をあらわす言葉として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[17]

ク・セ・ジュ

繊細の精神

三権分立

自然へ帰れ

第2問 次の文章を読み下の問い(問1～問14)に答えよ。(配点36)

科学的認識は、感覚的な経験による実証と理性的な議論による論証という二つの面を持つ。これに対応して近代科学の成立期の西洋には、大きく分けると、(a)経験主義と合理主義(理性主義)という二つの思想の流派が見られる。

経験主義は、人間の心を[18],すなわち何も書かれていない書版にたとえ、知識のただ一つの源泉を(b)感覚的な経験に求めた。他方、合理主義は、生まれつき人間の心には一定の知識が観念としてそなわっていて、理性(ないし知性)によって直感的に認識される、と論じた。合理主義がこのような論じたのは、経験主義のこのような有限な経験からの帰納によっては、[19]と考えたことによる。しかしこれに対して経験主義は、理性による直感という合理主義の主張はただ自分の独断的意見を正当化する口実に過ぎない、と反論するだろう。

同じような対立が道德の領域においても生まれる。経験尊重の態度をつらぬくと、たとえばホブズやベンサムのように、日々に経験される感情や欲望あるいは快楽や苦痛に、道德の原理をもとづかせることになろう。これに対して、合理主義的立場をとると、たとえば(c)カントのように、(d)理性の教える普遍的な定言命法として、道德法則を立てることになろう。ホブズやベンサムの考えは、カントの立場から批判される。第一に、自然法はホブズのいう意味では、定言命法ではなく、仮言命法となる。第二に、ベンサムの道德原理では、人間の尊厳の根拠となる人格の自立性が保証されない。しかし逆に、カントの考えは、経験主義からの反論を受ける。というのは、彼の考えは、道德の原理が理性によって直感的に知られる、という主張を含むと見られるが、この主張はやはり、自分の独断的意見を正当化する口実にすぎないという、批判にされされるからである。

思想の歴史を学ぶとき私たちは、このように、認識の問題についても、道德の問題についても、経験主義と合理主義との対立を見いだす。しかしその解決はもはや、私たち自身にゆだねられた課題である。知への愛(哲学)は今も求められているのである。

問1 文中の空欄[18]に入る最も適当な用語を、次の～のうちから一つ選べ。

コギト・エルゴ・スム ベッルム・オムニウム・コントラ・オムネス
タブラ・ラサ スキエンツィア・エスト・ポテンツィア

問2 文脈から判断して、文中の空欄[19]に入れるのに最も適当な文を、次の～のうちから一つ選べ。

不確実で独断的な意見を構築することしかできない
演繹によって論証するよりも確実な知識を得ることができる
実証によって懐疑主義を乗り越えることができる
演繹の前提とすべき普遍的で確実な知識は獲得できない

問3 下線部(a)経験主義と合理主義に関連して、デカルトとスピノザとヒュームの著作を、次の ~ のうちから一つずつ選べ。デカルトの著作は [20] に、スピノザは [21] に、ヒュームは [22] に答えよ。

ニュー・アトランティス 人知原理論 方法序説
エチカ 物体論 人間本性論（人性論）

問4 下線部(b)に関連して、F. ベーコンが指摘した、人間の知性をとりこにしている、感覚的経験を誤らせる偶像のなかで、劇場のイドラの例として正しいものを、次の ~ のうちから一つ選べ。 [23]

学校のトイレに花子さんという霊がいるという噂を聞き、ひとりでトイレに行けずにおもらしをしてしまった。

卵を生んでいるウミガメの流している涙を見て、動物も人間と同じように苦しみに耐えながらも愛情を持って出産しているのだと思いこみ、感動してしまった。

子供の頃からお寿司といえば、いなり寿司か太巻き寿司しか食べたことがなかったので、江戸前ににぎり寿司のことをどうしても生寿司と言ってしまい、恥ずかしい。

少し体調が悪かったので近くの個人開業医にかかろうと思ったが、大学病院の方が診断も治療も間違いがないだろうと考えて、遠くの大学病院まで通院した。

問5 F. ベーコンの言葉として適当でないものを、次の ~ のうちから一つ選べ。 [24]

わたしが明証的に真理であると認めるのでなければ、どんな事柄でもこれを真実として受け入れないこと。

感覚と個別的なものから一步一步段階的に上昇して命題を引き出し、最後の最も一般的な命題に到達する。この道が真の道である。

人間の知と力は一つに合する。

自然は服従することによってでなければ、征服されない

問6 パークリーの思想 [25] とヒュームの思想 [26] として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つずつ選べ。

数学や自然科学は純粹理性の協働によって確実な学的認識たりえているのであり、感性的制約を超えた対象にかかわる形而上学は、確実な理論的学としては成立しえないとした。

因果関係から「ひき起こす」とか「力」とかいう概念を排除し、それは「恒常的连接」という関係にほかならないとした。

自然の奴隷としての人間が、観察と経験とに基づく自然の解明を通して自然の支配者へと反転する過程と方法を研究した。

何ものも「心の外」には、すなわち知覚を離れては存在しないとすれば、もはや物質的実体の存在を認める余地はないとした。

問7 デカルトの世界観として適当なものを次の選択肢と選択肢の～からそれぞれ一つ選べ。(センター1995年追試, 1996年追試改題)

選択肢 [27]

- 精神と物体とは, 分離することができないとする考え方。
- 精神と物体は, それぞれ独立した実体であるとする考え方。
- 精神の働きが, 物質のイメージを生み出すとする考え方。
- 物体が原因となって, 精神の働きが生まれるとする考え方。

選択肢 [28]

- 自然を構成するのは, 広い意味での魂に他ならないモナドである。
- 自然物はすべて, 自らの目的を実現するために運動する。
- 自然は, 形と大きさをもつ物体及び物体間の因果作用からなる。
- 自然現象は, 火・気・水・土の四元素の混合分離に他ならない。

問8 デカルトの方法的懐疑について, その説明として間違っているものを, 次の～のうちから一つ選べ。[29]

- 感覚の不確実性と真理の相対性を明らかにするための懐疑。
- 確実な真理を獲得するための懐疑
- 少しでも疑問の余地のあるものは一旦虚偽として放棄する懐疑。
- 偏見や感覚的経験にもとづく誤りを排除するための懐疑。

問9 スピノザの「神即自然」の説明として最も適当なものを, 次の～のうちから一つ選べ。[30]

万物は精神も物体も含めてすべて神のあらわれであり, いっさいは神の内的必然によって生起する。

精神を第一義的存在とし, 物質と生命とは精神がいまだ眠り, あるいは無意識的に活動している段階と位置づける。

無限な宇宙の第一原因が宇宙霊で, それによってまとまりをもつ無限な宇宙を, 神の足跡, 神の展開とみなす。

人間や動植物だけでなく, 無生物なども含めた自然界に, 広く神々の存在を認めて信仰の対象とする。

問10 ライブニッツの予定調和説の説明として最も適当なものを，次の～のうちから一つ選べ。[31]

- すべての人間の救済が，神によってあらかじめ予定されているとする説。
- 神によって，あらかじめ諸実体の間の調和が定められているとする説。
- 人間は信仰によってのみ，義とされるとする説。
- 各個人の利己的な利益の追求が全体として社会の調和をもたらすとする説。

問11 文中の下線部(c)に関連して，カントの著作でないものを，次の～のうちから一つ選べ。[32]

- 自由からの逃走 実践理性批判 永久平和のために 純粹理性批判

問12 文中の下線部(c)に関連して，定言命法の在り方を示すカントの言葉として最も適当なものを，次の～のうちから一つ選べ。[33]

- 認識はすべて経験をもって始まるが，すべて経験から始まるのではない。
- 汝の意志の格率が，常に同時に普遍的立法の原理として妥当するように行為せよ。
- 概念なき直観は盲目であり，直観なき概念は空虚である。
- 汝の人格やほかのあらゆる人格のうちにある人間性を，いつも同時に目的として扱い，決して単なる手段としてのみ扱わないよう行為せよ。

問13 カントの「目的の王国」という考え方の説明として，最も適当なものを，次の～のうちから一つ選べ。[34](1997年センター追試験)

神が，全宇宙の王としてすべてを支配し，教会はその代理を務めるのだから教会への服従こそ道徳的共同体の基盤となる。

人々が他人を自分のための手段としてのみ見なして行為することなく，お互いに人格として尊重しあって生きる社会が理想である。

社会は，皆が一致して追究する一つの目的によって統合されるのだから，個人の意志は社会全体の目的に統合されねばならない。

自然界は，物理法則に受動的に従うものではなく，道徳的な完成への道を歩む一つの合目的な機構である。

問14 経験主義と合理主義の対立に関する、次の～の記述のうちから、本文の内容に合致するものとして最も適当なものを一つ選べ。[35](1991年センター本試験)

この対立は、真理に到達するにはこの種の対立を止揚すべき弁証法的思考が必要であることの証拠である。

この対立は、科学的認識とは何かを全体としてとらえきれなかった、西洋近代初期という時代の制約の表現である。

この対立は、それぞれの視点の明確さにより、人間の認識や道徳に関する哲学的な問題の所在を明らかにしている。

この対立は、そのいずれを選択すべきかが私たちの実存的決断にゆだねられている、私たち自身の課題である。

第3問 次の文章を読み下の問い(問1～問13)に答えよ。(配点30)

政治社会の成立を個人間の契約に求め、それによって政治権力の正統性を説明する理論を社会契約説という。(a)自然法思想とともに、17～18世紀のヨーロッパにおいて全面的に展開され、国家を個人の作為とし、政治的義務の根拠を個人の選択に求めることによって、権力による事実的支配であった主権国家を、被治者の自発的結社に組みかえる近代国家の構成原理として、歴史的役割を果たした。これは、個人の間には政治権力の存在しない自然状態を想定し、各人に (a)自然権を認めるとともに、これらの個人が相互契約によって社会状態を構成すると説くものである。

ホブズは著作『[36]』の中で、自然状態を [A] と考え、その克服のために絶対無制限の権力が必要であるとして、各人が特定の自然人または合議体を主権者として受け入れることを相互に契約するとき、その間に政治社会すなわち国家が生まれると説いた。これに対して、(b)ロックは『[37]』の中で、まず相互契約によって社会を構成した諸個人が、多数決によって選んだ立法機関に統治を委託すると説き、その目的を (c)自然権の保障に求めることによって、権力に制限を加えた。

18世紀に入ると、社会生活の組織化が進み、また社会契約は歴史的事実ではない、という経験科学的批判が起こったが、その中で (d)ルソーは『[38]』のなかでこの図式に新しい内容を与え、この理論の革命的意味を明らかにした。彼によれば、主権はつねに契約によって社会を構成した諸個人の全体すなわち人民にあり、この人民はそのまま立法機関として定期的に集合し、その意志すなわち [B] 意志を法として制定するが、その執行は別に政府を選んでこれにゆだね、しかも政府の存立は全面的に人民の信任に依存するのである。この思想は一方では、変革を目指す運動の精神的支柱となると同時に、他方では、革命期の強権的な独裁政治を正当化する根拠にもなってしまった。

激動の余波は、ドイツへも及んだ。ルソーを愛読し、革命に熱狂した青年 (e)ヘーゲルは、祖国の変革と統一という夢を見る。だが後に、ヘーゲルは (f)「理性的なものは現実的であり、現実的なものは理性的である」と書き記した。実際、経済社会としての市民社会にも、スミスの言う「見えざる手」によって秩序が保たれる。市民社会の秩序は、しかし、不平等と悲惨を内に含んで成立している。ヘーゲルにあっては、いわば、市民社会こそが、批判され、乗り越えられるべき自然状態となる。

こうして、(g)啓蒙思想の一分野として自由平等な個人の自然権から出発した社会契約説は、政治権力制限の理論から、人民主権の理論へと展開し、自由主義および近代民主主義の理論的骨格をつくり出して、近代国家の構成様式に絶大な影響を及ぼした。アメリカ独立宣言を起草したジェファソンが憲法を社会契約と考えて、世代ごとにその見直しを求めたのは、その一例である。社会契約説は、だいたいフランス革命の終了とともに理論的生命を失ったが、権利義務関係としての公的秩序という近代国家の機構の背景にはなお潜在していると見てよい。

問1 文中の空欄 [36] [37] [38] に入れるのに適当な著作名を，次の ~ からそれぞれ一つ選べ。

社会契約論	リヴァイアサン	戦争と平和の法
国富論	統治論（統治二論）	国富論

問2 文中の空欄 [A] に入る最も適当な文を，次の ~ から一つ選べ。 [39]

自由・平和・平等な理想状態
適者生存のための競争と自然淘汰
万人の万人に対する戦争
自然法が存在する平和状態

問3 文中の空欄 [B] に入る言葉として適当なものを，次の ~ から一つ選べ。
[40]

自由 全体 特殊 一般

問4 下線部(a)に関連して，自然法思想の歴史的展開についての説明として間違っているものを，次の ~ から一つ選べ。 [41]

グロティウスは国際法学を基礎的に体系づけ，人間の社会関係はすべて理性的，社会的で自由・平等な人間相互間の基本的社会秩序としての自然法に服するとした。

トマス・アキナスは自然法を，神の世界統治の理念である永遠法が人間理性に刻印されたものであると考えた。

ストア哲学の中では，全宇宙を支配する神的摂理の法としてのロゴスから，理性を持つ人間に共通の自然法が生じると考えられた。

ソクラテスは衆愚政治の中で不当な死刑判決を受けたが，「悪法も法である」以上はしたがう義務がある，とする自然法思想に基づいて，脱獄ではなく処刑を受け入れた。

問5 下線部(b)に関連して、ロックの思想の説明として間違っているものを、次の ~ から一つ選べ。[42]

国家権力が特定の統治機関や個人に集中して専制化することを防止するのを目的として、権力を立法・司法・行政の三つの統治機関に配分し、権力相互間における抑制・均衡によって政治を行うべきであるとする三権分立を主張した。

神の存在と摂理、来世の賞罰、救世主イエスの信仰と福音書の教える道徳的生活が信仰の核心であり、それ以外の宗教上の相違は寛容の対象であり、信仰は心の問題であり、政治的差別の理由にはならないという宗教的寛容を主張した。

政府は国民の信託契約によって成立し、国民には服従の義務がある。だがそれは絶対的なものではなく、国民は契約目的に反するときには為政者を更迭できるとして革命の正当性としての抵抗権を擁護した。

問6 下線部(c)に関連して、ロックの自然権についての解釈として適当なものを、次の ~ から一つ選べ。[43]

生存権 社会権 所有権 平等権

問7 下線部(d)に関連して、ルソーの主張と合致するものを、次の ~ から一つ選べ。[44](1996年センター本試験)

国家という共同体の目的は共通善であり、それ自体が至高のものである。

人は自分の存在を維持するために、他人たちと一つの身体を構成する。

人間は自由なものとして生まれたが、至るところで鎖につながれている。

各人は、平和の希望が存在するかぎり、平和に向かって努力すべきである。

問8 下線部(e)に関連して、ヘーゲルが意義づけを行った、自己自身を吟味し、自己自身で自己の限界を規定しつつ、内在的に自己止揚していく思惟の運動の論理・法則を何というか、次の ~ から正しいものを一つ選べ。[45]

観念論 弁証法 演繹法 唯物論

問9 下線部(f)に関連して、この言葉の説明として最も適当なものを、次の ~ から一つ選べ。[46]

自分の理性だけが唯一の実体であり、現実は無稽である。

人間の理性のみが客観的な現実を理解することができる。

現実と理性は別物ではなく、現実の中にこそ理性的なものがある。

意識が存在を規定するのではなく、人間の社会的存在が意識を規定する。

問10 ヘーゲルの国家論の特徴を説明した文章として最も適当なものを、次の～から一つ選べ。[47](1999年センター追試験)

ヘーゲルは社会契約説が国家を権利のための道具とみなしている点を批判した。そして、人倫の最高の形態である国家において、公共性と個人の自由との対立が止揚されるべきものだと考えた。だが、実際には国家の個人に対する優位性が強調され、当時の立憲君主制を擁護するものとなっている。

ヘーゲルは、君主制国家の建設によって、権利の対立を解決すべきであるとし、人民はそうした国家への全面的服従に自分の存在理由を見出すべきであると主張し、当時の国家体制を擁護する思想を展開した。

ヘーゲルは、権利の対立を公共性の視点から解決するために、福祉国家を構想した。ただし、フランス革命後の恐怖政治に対する反省から、公共性の視点は教育や討議によって徐々に形成されるべきであるとして、社会民主主義的な漸進的改革の道を求めた。

ヘーゲルは、市民社会が生み出す貧富の格差や不平等の原因が、権利の思想という上部構造よりも資本主義社会の下部構造にあると考えた。そこで彼は、資本家による生産手段の私有制を階級闘争によって打破し、労働者による生産手段が共有化された共産主義体制を目指すべきであるとした。

問11 下線部(g)に関連して、フランスの啓蒙思想家集団である百科全書派として適当でない思想家を、次の～から一つ選べ。[48]

パスカル デイドロ ルソー ヴォルテール

問12 フランスの啓蒙思想家モンテスキューがアンシャンレジームを批判した著作で『法の精神』と並ぶ彼の代表作を、次の～から一つ選べ。[49]

ペルシア人の手紙 人間機械論 哲学書簡 ドランベールの夢

問13 啓蒙主義の歴史把握を類型化したものとして最も適当なものを、次の～から一つ選べ。[50](1988年共通一次本試験)

ある事態が時間と共に進歩・発展する過程。

天体の運行や四季の推移のような同じものの循環。

一回かぎりのものの無規則な生成消滅。

運動するものも変化するものも存在しない静止状態。

以上